

第17回特別企画

「映える浮世絵版画展」

—山田春雄氏コレクションから—

好評開催中!

今回の特別企画展は「ポップで映える浮世絵、あらゆる日本の物語がここにある!」をテーマに、歌川国貞や歌川広重など江戸時代に活躍した浮世絵師による浮世絵版画作品115点を一堂に展示しています。

6月30日に開催されたオープニングセレモニーでは、山田春雄さんが「世界の著名な作家に影響を与えた浮世絵版画は日本固有の文化で、これほど高度な技術を持っていることは誇れること。描かれている着物やかんざしなどの道具を見ることで、当時の生活や文化などが垣間見える」と話しました。

貴重な機会ですので、ぜひ多くの皆さんにご観覧いただければと思います。皆さんのご来場をお待ちしています。



オープニングセレモニーの様子

会 期…8月29日(日)まで

場 所…立佞武多の館2階 美術展示ギャラリー

開館時間…9:00~17:00(入館時間16:30まで)

入館料…300円(団体20名以上、270円)

高校生以下無料

問い合わせ先…社会教育課 内線2954



展示室の様子



「名妓三十六佳撰 瀧川」(左)

(めいぎさんじゅうろっかせん たきかわ)

三代目歌川豊国(歌川国貞)晩年の浮世絵作品で、名妓三十六佳撰シリーズのうちの一つです。

幕末の文久元年(1861年)に制作されたもので、幕末当時の名高い芸妓(げいぎ・げいこ)たち36人を描いたシリーズものです。

これは夜店の植木売りで、鉢物の盆栽に見とれている芸妓・瀧川の様子を描いています。幕末当時に盆栽が流行っていたことが分かるだけでなく、芸妓の髪型や着物の柄など、当時の風俗なども分かります。